



第769号 2012年4月29日発行 日本共産党裾野支部

明るい裾野



小沢良一 tel 992-0875 fax993-8141 深良27-2

岡本和枝 tel/fax 992-5174 茶畑 854-3 E101

http://www16.plala.or.jp/ozawa_ryouti

peace_love_cabird@yahoo.co.jp

困ったことがあったら小沢、岡本のなんでも相談へ

震災がれきの 試験溶融の島田市を視察

放射能問題で2～3割の市民の理解が得られていません

震災がれき受入で注目されている島田市を裾野市議会議員21名が3月30日に視察をしましたのでその報告をします。

島田市は、震災がれき受入の試験溶融を、被災県以外で東京都、山形県に次いで受入を表明、試験焼却を実施した自治体として全国的に注目されました。

放射能空間線量測定(島田市公表)は試験溶融前2月15日・試験溶融後2月17日、ゴミ溶融炉施設がある伊太小學校正門地上1mで測定。溶融前は0,07マイクロシーベルト・溶融後0,07マイクロシーベルトで変化なし。処理灰の放射能濃度は地元の一般ゴミのみは2月15日48ベクレル/kg、2月17日震災がれきを混入ゴミは64ベクレル/kgで若干数値が



上がったことが確認されました。

島田市のゴミ処理施設は溶融炉方式。金属類や一般ゴミを溶融し、一般ゴミはガス化燃焼し溶融スラグにして回収。金属類は溶融メタル状態で回収。重金属類(水銀・クロム・鉛)が灰に混入するため、化学物質で重金属を取り込むキレート処理をしています。TVで放映されている灰は桜色の固形物になっているのはそのためです。

島田市の職員の方から受入焼却までの様々な動きの紹介が有りました。島田市長の判断で試験焼却は実施されたが、灰埋立場の地権者11名の中10名から放射能廃棄物受入を断念する様に要望が出され、埋立場自治会からもがれき受入の反対の要望があるなど、放射能汚染を危惧する市民行動が有り、2～3割の市民の理解を得られていない状況といえます。そのため、島田市と静岡県は共同で「放射能物質と災害廃棄物に係わる講演会」を放射線防護学の野口邦和氏や廃棄物工学の宮脇健太郎氏を招いて行っていますが本格的溶融には時間を要すると感じました。

浜岡原子力発電所を視察 津波対策の工事状況を見聞 中部電力社員は津波対策万全を 強調 しかし新たな津波が

3月30日、裾野市議会議員21名は浜岡原子力発電所の視察を行いました。

浜岡発電所の視察は、市議会議長に生活クラブ生協から提出されていた「浜岡原発の廃炉と使用済み核燃料の安全確保、そして再生エネルギーを重視したエネルギー政策の変更を求める意見書」の採択を求める要望書を市議会で取り扱うにあたり、浜岡原発を知るために行われました。

土屋篤男市議会議長はこの席上の挨拶で「裾野市議会は浜岡原子力発電所を廃炉にする意見書提出を不採択にしました」と発言しました。この発言をするために、市民から請願された「浜岡原発の廃炉と自然エネルギーへの画期的転換を求める請願」の市議会での継続審査を否決して、3月市議会会期中(3月28日)に請願の結論を出すように急いだのかと思われても仕方のない発言でした。

中部電力側からは、牧ノ原市議会は「浜岡原子力発電所の永久停止」の決議がされているとの発言がありました。

説明後、津波対策の工事現場に案内されTVや新聞などで報道されている津波対策で地下部分に埋められる鉄筋枠の製作状況を見学しその後、停止している原発5号炉に案内をされ、説明を受けました。原子力館に帰っての意見質問の機会がありま

したので、小澤議員から2点の質問をしました。1点目は、「施設内に原水タンクがあったが何に使われるのか」と聞いたところ、広報担当社員は「使用済み核燃料を冷やすための水を貯めているタンク」であること、しかし地震対策がされていないと説明がありました。2点目は、「炉冷却用海水を海から取っているが地震でそれぞれの原子炉への個々の海水路が破断しても連結して補うようにしているので問題がないが、それでも対応できない時には川から取水するとの話しがあったそれはどうゆう事か」と聞きました。社員は「新野川が原発付近を流れており、そこから可搬ポンプで水を汲み上げ冷却水として使う」との説明でした。電源喪失などで冷却機能が失われないように対策を取っているがそれでも電源損失の緊急時には「可搬ポンプ(燃料発電で消防団などが消火用に使用)」で冷却水を汲み上げ対応するとの説明には、福島原発での東京消防庁の「ハイパーレスキュー隊」の放水車による放水やコンクリート注入車による原子炉への注水など観ていて、可搬ポンプで汲み上げる行為で対応できる状況なのか疑問に感じました。視察数日後、地震での津波の新たな高さが報道され浜岡原発は21m(中電は18mの津波想定で防潮壁を構築中)の津波が襲う危険性を指摘されました。

直下にある H 断層は8万年から13万年動いていない断層、だという認識で、直下型地震は想定していないということがわかり、「想定していない、これでいいのか」、と思いました。

震災がれき受け入れ 長期的に見て 重大な問題に なる「低線量被ばく(内部被 ばく)」を考える

岡本裕市

前号で、1) 焼却場にセシウムを非常によく吸着するゼオライトによるセシウム吸着装置をつけること。2) 最終処分場を遮断型最終処分場にすること。の2点を提案しました。裾野市の最終処分場は地下水汚染が防げません。ダイオキシン問題の時から深刻な問題でしたが、今回の震災がれき受け入れの問題として、「裾野市のゴミ焼却灰も放射能汚染されている」ため、地下水汚染を避けるため遮断型最終処分場は必須条件です。なぜこうも力説するのかの根拠をお話します。



これから怖い

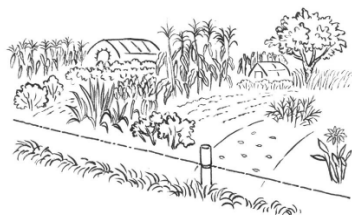
「低線量被ばく 内部被ばく」

国際基準を定めている ICPR (国際放射線防護委員会)は、放射線防護に関する勧告を行う民間の国際学術組織で、「100ミリシーベルト以下は害はない」との基準を作り、日本政府もそれに従っています。

「科学的根拠はないけど低線量被ばく(基準を決めた)」と ICPR の元委員が証言

しかし、昨年12月28日の NHK「追跡真相ファイル」で、その基準を定めた元委員

が、「科学的根拠があつて決めたのではない。ICPR の(政治的)判断で決めた」と衝撃の証言を行いました。現在、内閣で低線量被ばくに対



する新見解を出すため作業部会を精力的に開いていま

す。一方、日本の原子力ムラの112人は連名で NHK 会長に抗議文を送っています。「多くの国民を混乱に陥れる恐れがある」という図々しい言い分です。今、この国を混乱に陥れているのは原子力ムラの面々じゃないですか。本当に図々しい。

子どもを守るためにあなたも一歩を

「原因があれば、結果がある」、これが科学的な態度です。しかし ICPR は、「低線量ではどんな影響があるかわからない⇒影響はわからない⇒影響はない」、と低線量無害神話3段活用で強引に推し進めてきました。背景には世界中の「原子力ムラ」の資金で ICPR が運営されているということがあります。低線量被爆で被害を受けるのは子ども^{ばんばっ}も。晩発性(長い潜伏期間を経て症状が現れること。症状も発がんだけではありません)で、何年も経って症状が出てきます。

ふるさとと子どもたちを守るために

具体的な提案と行動を続けて行きましょう。

あなたも一緒にどうぞ。



消費税は「不公平」な税金

野田首相や政府税制調査会は、「個人の購買力に応じて、広く公平に負担するから消費税は公平」と言っています。

マスコミを通じてどんどん流されるため、国民の中にはそのように思っている人も多いでしょうし、「消費税増税は社会保障のためだ」と聞くと、「10%は大変だけど仕方ないね」と思う人も大勢いると思います。

しかし、大企業は儲かっているのに1円も消費税を払っていません。消費者は生活費を削り消費税を払い、中小零細業者は利益を削るどころか、生命保険を解約したり、家族は無給にしたりして負担しています。

それでも消費税が**メガ**不公平な税金だという事がわかります。



輸出企業は、国から消費税を還付してもらっているのには全く驚きます。簡単に、「輸出戻し税」について説明します。

輸出企業が外国へ品物を売るときは消費税は請求しません(消費税は国内取引にかける税金)。たとえば、車の販売会社が外国へ500万円売り上げをします。売り上げの消費税請求はしませんので0円です。車を製造するのに材料には消費税を支払いますので、400万円とすると消費税は20万円です。説明を簡単にするために、維持費はなにかからなかったことにしますと、売り

上げに対する消費税は0円で、仕入れで支払った消費税は20万円です。差し引きで20万円消費税を払いすぎたということで還付の申告をします。

税務署は、自動車販売会社に消費税20万円を返します。これが大企業の「輸出戻し税」という、何とも不思議な税金です。

志位さんの演説聞いた
税負担は応能 能力に応じて払う
で 消費税は
Oh!No!(オーノー)です

国にお金がないのだから、みんなで負担するしかない、社会保障の質の低下は、税収不足のため充実させるためには増税もやむなし、被災地支援もあるし、ひっそりと暮らしていくしかないかと思っていました。

しかし、応能負担の原則によれば、まだまだ手段はあるとのこと。具体的な話を聞き、大增税の前にできることがたくさんあることがわかりました。

税負担は応能で!!、消費税は **Oh!!!No!!** (オーノー) というべきだと思いました。

(海へモ 街へモ 行ク ヤマンバ)



久能山の石垣イチゴ食べ放題